



『人は2000連休を与えられるとどうなるのか?』

上田 啓太／著 河出書房新社 916 ヲ

京大を卒業後、仕事を辞め、1畳半の物置に居候することになった著者、上田啓太。だらだら過ごすこともつかの間、やがて始まる思考の大洪水。行き着く先は天国か地獄か。自分とは？ 人間とは？ 問い続ける若者の2000日連休のドキュメント。

『星の王子さま』 サン=テグジュペリ／著

河野 万里子／訳 新潮社 953.7 ヲ

小さな星の王子さまは、大切に育てていたバラとけんかしたことをきっかけに、星々をめぐる旅に出ます。旅の途中でさまざまな出会いを重ねるうちに、王子さまは、自分のバラが特別だった理由に気づいていきます。

この本を読み終えたとき、あなたにとって、特別でかけがえのない存在が思い浮かぶはずです。



『あふれたまち』

マリアホ・イルストウラホ／作 鈴木 沙織／訳 化学同人 E

いつもと同じある朝、街がちよっぴり水浸しになっていました。長靴を履くのびたりで、最初はだれも気に留めていませんでしたが、だんだん水位が上がってきます。小さな動物たちから困りはじめ、大きな動物もいよいよ困り果てたとき、彼らはある動物が最初から声を上げていたことに気づきます。

【絵本室にあります】



『メルカリで知らん子の絵を買う』

藤原 麻里菜／著 文藝春秋 914.6 ヲ

無駄なことを無駄と切り捨てることなかれ。表題の「メルカリで知らん子の絵を買う」や、「名前のない行動をしてみる」「キッズケータイで生きる」など著者が行った日常で「余計なこと」をしてみるエッセイ集です。忙しい日常の中や、ちょっと息が詰まりそうになった時は「余計なこと」、してみませんか？



『どろぼうジャンボリ』 阿部 結／作 ほるぷ出版 K913 ア

どろぼうジャンボリは、みんながごみ箱に捨てた書き損じの手紙「てがみのたね」を読むことを楽しみにしています。そこには「はだかんぼうのきもち」が綴られているからです。ところがジャンボリのささやかな楽しみを奪う事件が起こってしまいます。

読み終えたあなたは、きっとだれかに手紙を書きたくなりますよ。

【児童室にあります】



『歴史とは靴である』 磯田 道史／著 講談社 204 イ

歴史は単なる暗記科目？ 偉人が作った壮大なもの？ 著者の磯田さんはどちらでもなく、歴史を靴に例えています。例えば、身近な人や物から過去の事例に学び、これから起こることを予測することができます。つまり歴史は実用品。この本には、世界に積み上がったあらゆるものごとを知り、人生に活かす術が詰まっています。

【ティーンズコーナーにあります】



『カリブー 極北の旅人』

星野 道夫／著 新潮社 748 ホ

北米のアラスカ地域に生息する野生動物のカリブー。1000kmの距離を移動しながら、厳しい自然の中を生きています。それは、何千年も前から変わることのない生命の営みです。雄大な景色のなかで躍動する姿がうつく写真集です。



『1分間思考法 素早く深く考えられる哲学思考トレーニング』

小川 仁志／著 PHPエディターズグループ 104 オ

哲学…普段は敬遠されがちな分野ですが、著者は1分間という短い時間で考える方法を多くの事例と共に紹介しています。友人とは、遊びとは、就活とは、自由とは何か。この方法でトレーニングすると、ぼんやりしていた輪郭がすっきりして、物事を別の視点でも考えられるようになります。

『正々堂々』 西村 宏堂／著 サンマーク出版 188.6 ニ

浄土宗の僧侶であり、メイクアップアーティストであり、LGBTQでもある著者による、自分らしく正々堂々と生きるための秘訣が書かれた本です。他人を気にせず、自分の人生を自分の思うように生きようと思える本です。



『旅と歴史好きのためのご当地グルメ誕生の秘密』

宇田川 勝司／著 ベレ出版 383.8 ヲ

ここ滋賀県で、地域の人々の生活を支えてきた保存食といえば？ そう、鮒ずしです。日本独自のすし文化の発祥は8世紀ごろであり、鮒ずしは、この時代のすしの名残を残した郷土料理なのです。日本全国にはこのような長い歴史を持ったご当地グルメがたくさん！ 読んだらきっと、日本を旅して食べ尽くしたくなる1冊です。



『物語を継ぐ者は』 実石 沙枝子／著 祥伝社 913.6 ジ

中学生の結芽は、急逝した伯母の部屋で大好きな児童書シリーズの原稿を発見。作者が伯母だったことに驚きながらも新作を読む喜びに夢中で読み始めたものの、原稿は未完のまま。物語の続きをどうしても読みたい結芽は、自分で続きを書くことを決意します。夢がありながらも現実的で、困難に立ち向かう勇気をもらえます。

【ティーンズコーナーにあります】



『せかいいいちうつくしい村へかえる』

小林 豊／作・絵 ポプラ社 E

長く続いた戦争が終わり、笛吹のミラドーがアフガニスタンの故郷の村に帰ってくると、村は何もかも破壊され、すっかり変わっていました。知らない人ばかりの中で笛を吹いていると、小さい頃に別れた親友のヤモが笑いながら立っていました…。戦禍の中でも友情や自然の美しさは変わらず、生きることへの静かな希望が伝わってきます。

【絵本室にあります】



『君はなぜ北極を歩かないのか』

荻田 泰永／著 産業編集センター 297.8 オ

2019年、北極冒険家の著者が、芸大生、フリーター、会社員など、アウトドア経験すらほとんどない若者12人と、総距離607km、1ヶ月間の北極行を行いました。みなさんと同世代の彼らのこの冒険への参加動機や挑戦する姿は、今後みなさんが何か決断しなければならない場面がきた時に、勇気をもらえそうです。



『わたしの名店 おいしい一皿に会いに行く』

三浦 しをん ほか／著 ポプラ社 914.6 ヲ

お気に入りのお店や行きつけのお店がある人って、なんだか大人だなと思いませんか？ この本では、28名の著者が自分にとっての名店と特別な1品を紹介しています。名店の定義は人それぞれ。あなたにとっての「名店」を探してみてください。

